

平成 29 年度 小平市 地域型地域ケア会議 実績報告（9 月～10 月）

1	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果
	□個別課題 ■地域課題				
	けやきの郷	9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む中、住み慣れた町で安心して暮らしていくために地域で何ができるのか。 ・地域の現状と今後の課題について、地域の方々と包括との意見交換を通し、高齢者の方を包括的に支援する体制づくり等の構築を目指す。 	民生委員児童委員 5 名 小川橋自治会 会長 緑水自治会 会長 南台自治会 会長 さつき自治会 会長 青葉自治会 会長他 1 名 地域包括支援センターけやきの郷 4 名 社会福祉士実習生 1 名	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員や自治会長、包括職員で直接意見交換することにより、情報の共有と顔の見える関係を構築することができた。 ・地域包括ケアシステムや生活支援体制整備事業について説明をし、地域づくりについて貴重な意見を頂くことが出来た。 ・高齢者が安心して生活できる地域づくりに向けて、さらに包括と民生委員をはじめとする地域住民での協働の必要性を確認できた。
			主な発言		
			（自治会） ・自分の自治会は 42 戸。半分以上が高齢者で独居は 5 人。2 軒心配なところがあり、民生委員の方に伝えてサービスが入った。見守りなどしている。 ・自治会で、自分の親世代であり面識のない人にどこまで踏み込んで聞いていいか迷う。自分も足が悪いので何でもやりますとは言えないのがつらい。近所付き合いのない人の情報集めは難しい。最近見ないな、という人について心配になることがある。 ・見守りボランティアのほかに、パトロールをしている「見守り隊」が 10 名いる。防犯協会の関係で、詐欺のチラシ配りなどもしている。 ・今のところ問題は聞いていないが、高齢者が多いので認知症の方はいると思う。女性がやっている「さわらび会」や納涼祭で交流あるので声掛けするようにしている。 ・困難ケースの解決事例を聞けるとありがたい。自分のところには一人暮らしでゴミの出し方ができておらず、夜型の生活をしているような男性がいる。精神疾患か認知症か、デリケートな部分なので難しい。 ・空き家問題が気になっている。今後どうなっていくのか。トラブルがあるらしく 20 年放置されている空き家がある。どうしようもないので、自治会有志で草刈りなどしている。20 名くらい集まってくれるのでそこで地域の情報交換も行っている。		

		<ul style="list-style-type: none"> ・自分のところでは市に6年間陳情しているが、個人財産だからと変わらずやってもらえない。市の課長クラスも異動するのであてにならない。 ・自治会をこえて、広域で何かできないか考えている。今はゴミが共通の議題になることが多いが、ゴミが戸別収集になったらそれもなくなる。地域コミュニティをどうしていくのか。防災連に入るようにしたが、これからは防災という点でつながれるか。 ・自分のところの自治会は昔からの二つだけ。新しい自治会はなく、自治会を抜ける人もぼつぼついる。ほとんどが挨拶程度の近所付き合いで、自治会そのものの存続が危うい。続いているだけマシなのかもしれない。 ・昔、私道整備の1割負担の為に積み立てをする為に自治会が作られた。今は整備されているのでその必要も無くなったのではないかと感じている。 ・立川市と隣接する5つの自治会で連合自治会を作り、墓地建設に反対したりした。今は焼却場が平成34年に移転することが決まり、跡地がさら地になるのでそこに何を建てるかという話し合いに参加してきた。 <p>(民生委員児童委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全戸訪問をするなかで外に出ている方はお元気な印象。閉じこもりの方はもちろん心配だが、自分のことはできるけど外には出ないなど中間の方も心配。デイサービスなどで機能訓練をして元気になると、介護度が変わって受けられるサービスが減るという現実がどうにかならないかと思っている。自分で通うには交通手段が不足している。 ・75歳以上の方の世帯を全戸訪問している。自分のところは219名いる。行くと喜ばれる、ということは今まで行けていなかったということかと振り返っている。拒否されたのは1名、インターホンに出ない方は十数名。時期的に熱中症のチラシを持っていた。帰ろうとしても帰れないくらい話をしてくれる方も多かった。 ・一軒、「民生」と聞いただけで貧困とつなげられ、失礼だと言われた。奥様を介して納得していただけたが、市への不満などいろいろ語られ辛かった。脊柱管狭窄症になって困った人がいたが、介護保険のことを伝えても動けるうちは申請したくないとの意向だった。 <p>(地域包括支援センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気になる高齢者のことは、地域包括支援センターに連絡いただければ、皆さんと一緒に考えて対応していきます。 ・地域包括ケアシステム構築に向け、生活支援コーディネーターとして野村、三島が担当する。今ある資源は何か、これから必要なものは何かなど地域の情報を共有しながら、皆様と一緒に安心して暮らせる地域づくりを行っていききたい。 ・ボランティアポイント事業については、西の圏域では使えるところがほとんどなく、タクシー券などの方が良いとの声が上がっている。他の自治体で行っているような介護保険のサービスに利用することも今はできない。今後、改善していききたい事業だと考えている。 ・自治会と地域包括支援センターは、今後とも顔の見えるお付き合いをお願いしたい。 ・介護保険や地域づくりに関する説明、認知症サポーター養成講座など地域にご説明に伺っている。いつでもお声掛け頂きたい。 ・今回ご意見を頂いた、自治会をこえた広域での取り組みや防災、ゴミ出しのことなど、この地域で何ができるのかこれからも考えていきたい。
--	--	---

2	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果
	□個別課題 ■地域課題 中央	9月	<p>～認知症の方が地域で暮らしていくための見守りや環境について～</p> <p>・高齢者支援に関わる団体・関係機関の代表者や、地域住民の参加による話し合いを持つことで課題を把握し、高齢者の方々が安心して暮らすことができる地域のネットワークづくりを行う。</p>	<p>民生委員児童委員 1 名 小川東町都営自治会 会長 地域住民 6 名 居宅介護支援事業所 1 名 東京都住宅供給公社巡回管理人 1 名 小平警察署生活安全課 1 名 高齢者支援課地域支援担当 1 名 地域包括支援センター中央センター 4 名</p>	<p>・地域住民や関係機関と顔合わせと地域の情報共有ができた。</p> <p>・地域包括支援センターの周知と訪問時のツールとして自治会や民生委員に協力していただき、チラシを作成することとなった。</p> <p>・高齢者が増える中で安心して暮らせる地域づくりを進めていくために、地域包括支援センターと地域住民と関係機関でのさらなる協働の必要性が確認できた。</p> <p>・自治会や民生委員が関わっていないと情報が行き渡らないため、情報発信についての工夫が必要でることが確認できた。</p>
			主な発言		
			<p>(認知症の方が地域で生活するにあたり、困ることや課題と感じていることについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中や自治会内にも認知症の高齢者の方がいる。しかし、確実に認知症なのかどうか分からない。 ・自治会では定期的に自治会費を集金するが、人と関わりたくないためか集金や介入に拒否する世帯がある。 ・市役所や地域包括支援センターが休日の場合は、警察が道に迷っている様子の高齢者を保護することがある。保護歴がない方の場合は、警察も身辺調査に時間を要することがある。 ・認知症の高齢者の方は、ゴミ出しや鍵の紛失、火の消し忘れ、新聞を複数契約する等の問題がある。特に一人暮らしの場合、生活の中の様子が分からないことが多々ある。 ・住宅供給公社では担当者が 80 歳以上の世帯のうち希望者に 2 か月に 1 回、安否確認を目的に巡回をしている。 <p>(明日から自分たちが実践できることについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔の見える関係や相談できる関係づくり ・ちょっとしたおせっかいが重要 ・支え合いや見守りの目を増やす（孤立している人を増やさない、1 人で頑張らない） ・訪問時のツールの工夫 ・何か気がかりな高齢者の方がいた場合、担当地域の民生委員や地域包括支援センターに連絡する（都営の場合は住宅供給公社のお客様センターへ連絡する） ・安心して住み続けられる地域づくりのためには、関係者とのネットワークの構築が大切である。何か気がかりなことがあった際には、地域包括支援センター等に連絡してほしい。 		

			<ul style="list-style-type: none"> ・訪問時のツールとして、簡易的な地域包括支援センターのチラシの作成が必要。 ・認知症サポーター養成講座や出張相談会等の情報発信については、積極的に地域住民に行っていく。 		
	会議種別 ・担当包括	月	検討内容	参加機関	開催結果
3	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 多摩済生 ケアセンタ ー 小平健成苑	10月	～地域の皆さんが活躍し、支え合える地域づくりを考える～ ・参加者がゲストの講演を踏まえ、グループに分かれて意見交換をすることで、多団体との関係づくりにつなげる。 ・「地域の人が、地域の人を支えるまちづくり」必要性について理解を深め、今後の自身の活動に活かしてもらう。	富士見住宅自治会 1 名、嘉悦大学教員 1 名 小平福祉園 2 名、民生委員児童委員 7 名 自治会長等 7 名、見守りボランティア 7 名 サロン運営者 4 名、通所介護事業所職員 1 名 居宅介護支援事業所職員 1 名 クリニック看護師 1 名 特別養護老人ホーム職員 1 名 介護老人保健施設職員 1 名 有料老人ホーム職員 2 名 小平市高齢者支援課 1 名 小平社会福祉協議会 1 名 地域包括支援センター中央センター 3 名 地域包括支援センター多摩済生ケアセンター 3 名 地域包括支援センター小平健成苑 2 名 社会福祉士実習生 2 名	<ul style="list-style-type: none"> ・お住まいの地域によって「一戸建てが多く団地のような結束力が低い」「新しい住民との交流が薄い」「集まる場所や交通手段がない」等の異なる地域課題が確認された。 ・参加者が、それぞれの活動の紹介し、意見を出し合うことで、顔の見える関係が広がり。自身の活動の振り返りとなった。 ・参加者アンケートから「意見交換する時間が十分に持てなかった」「もっと皆さんの話を聞き、地域づくりについて考えたい」という意見が多かったことから、今後はより小地域での継続的な勉強会開催について、参加者の意向を聞きながらの検討の必要性が確認できた。
			内容と主な意見		
			<ul style="list-style-type: none"> ・小平市高齢者支援課、小平健成苑生活支援コーディネーター、富士見住宅自治会長、嘉悦大学地域連携委員長、小平福祉園施設長の講演を聞いた後、地区ごと 5 グループに別れ意見交換会を行った。 ・「顔の見える関係ができ、年齢に関係なくつながり、気軽に会話できるような『他世代が安全・安心に支え合う地域』になったらいい。そのために、今それぞれがしている活動や思いについて情報共有できる機会がもっとあるとよい」という意見が多く出された。 		

開催回数 3 回 （多圏域における合同開催 1 回）

平成 29 年度 小平市 個別型地域ケア会議 （9 月～10 月）実績報告

開催回数 3 回